

連盟ニュース

NO. 95 7-1960

ヴェネチア・ビエンナーレ開く

第30回ヴェネチア・ビエンナーレ国際展は六月十八日開会十月十六日まで四カ月間開催される。日本は既報のとおり絵画山口薫、斎藤義重、佐藤敬、今井俊満、版画浜口陽三、彫刻柳原義達、小野忠弘、豊福知徳八氏の作品をもって参加した。

審査方法が改められて、今回は日本は審査に加わらず、受賞には入らなかったが、総じて日本館の出品はきわめて好評であった。

大賞は本年は彫刻に該当作品がないということで、国際絵画賞がフォートリエ(仏)とアルトゥング(仏)の二名に、国内絵画賞がヴエドヴァ、同彫刻賞がコンサグラに授与された。

日本代表富永惣一氏から国際文化振興会米沢常務理事宛の報告(六月二十日附)を左に抄録する。

「出発の際はいろいろお世話に相成りありがたく厚く御礼申し上げます。ヴェニス到着後ただちに準備にとりかかり、万端順調に運びました。作品も全部破損なく到着、板、白い小石は数日おくれて、全部到着してあります。カタログも届きました。レセプションは十五日正午から一時まで開催しましたところ例年になく八百人に達する来客で日本館が一番の人気でした。と申しますのも、今年の出品作品が何れも大変な好評で、館としては一番優秀であると専門家並びに一般の人々も激賞して、

前景気が大変賑やかだったからです。出品作家、作品の選択と陳列がよかったと多数の人たちから推賞されたことをおよろこび下さい。

ことに斎藤君の作品は注目され、浜口君の版画はもはや世界的に第一級であることを各国が認めました。また山口、佐藤、今井諸兄の作品もそれぞれ充実した力作揃いで注目され、館全体が最高の水準を示すものとして審査委員会が公式に最優秀であることを認めました。できれば日本館に全体としての賞を与えたいとの話になりましたが、館の賞がないので残念だということでした。

審査方法は今年は改革されて七カ国、イタリア二人、イギリス、フランス、スペイン、ポランド、ドイツから各一人出ることになりました。今年はヨーロッパだけのことになったわけです。しかし今回はアメリカ、日本は必ず出てもらうとのことでした。

それも日本館が好評だったので、ビエンナーレにおける日本の位置は今年をもって確立し、日本が重要な役割を果していることを全館のコンミッションールが認めた結果で、大変嬉しいことです。個人賞が与えられなかったのは残念ですが、これには例年同様政治的な意味が多分にあり、審査国の間で取り引きされたので、この見苦しいヨーロッパのとり引きに日本は超然として、立派な作品で対応するの一番賢明だと思つづく感じました。

またカタログの評判も大変よろしく、直ちに開会間もなく無くなりました。次回は少くとも五千部以上に致したいと思ひます。(下略)

第32回理事会

六月十八日午後五時半から東京駅乗車口地下レストランとうきょうで開いた。

出席 新井、伊原、大河内、高野、田中、(委任状九)各理事、大久保、村井各監事、事務局和田、木下、倉田、西原

田中理事長代理を議長として左の議事を行なった。

◇報告事項

- 1 益田理事長はヴェネチア・ビエンナーレの用務のため六月二日羽田発渡欧した。
- 2 前回委員会の決定にしたがい、六月七日著作権協議会宛に抗議書を発送し、その写を同会役員および各加盟団体に送って考慮を要請したこと(前号参照)。また同会北村幹事長代理小林弁護士から和宛電話で、ニュース三月号の記事につきいよいよ告訴の手続きをとるといつてきたこと。
- 3 災害救援中部美術家協議会安井一男氏から、同会事業完了につき報告をよせられたこと(前号参照)。
- 4 セイロン画僧ウィブラサーラ氏持参のセイロン絵画展がIAPPA日本委員会後援で開かれたこと(前号参照)。

5 IAPPAチリ委員会および昨年来日した同国画家オタ氏に日本委員会宮本委員長の名で地震の見舞状を送ったこと。

◇協議事項

- 1 入会申込者承認の件
五名の申込みを承認、八名を再調することとした。
- 2 旅館特約の件
中畑紳人氏紹介の和歌山県串本旅館を特約することとした。
- 3 購買部取扱品の件
高野理事紹介の片面無反射ガラスにつき協議し、購買部取扱いは困難であるが特約することとした。
- 4 会員のための催しの件
前回委員会の協議にもとずき映画会の計画を相談し、近日催しもの委員で候補映画の試写をみてきめることとした。
- 5 I G A S から依頼の件
アメリカの国際版画協会の代表者が近く来日するので協力の依頼をうけたが、協議の結果主として日本版画協会に委任する方針とした。
- 6 著作権協議会対策の件
意見を交換したが、しばらくこのまま待つことにした。
- 7 会館設計問題の件
設計の第一案に関する会社側の意見書につきディレクター会議で相談の上回答したこと、なおこの件につき田中、和田両名が会社代表者と話合った結果、十六日設計者、会社側および連盟田中、和田の諸氏会合し、会社としての希望条件等を提出したことを報告し、今後の進捗につき協議した。
- 8 第三回建設展計画の件

寄贈図書目録等

左記の通りご寄贈いただきました。ご報告とともに感謝の意を表します。

雑誌・図書

- 「芸術新潮」六、七月号
- 「美術手帖」七、八月号
- 同 七月増刊
- 「みづゑ」六、七月号
- 「三彩」六、七月号
- 「MUSEUM」六、七月号
- 「アトリエ」四、七月号
- 「別冊アトリエ」No.59
- 「一九六〇・ブリヂストン美術館々報」
- 「日本芸術院要覧」
- 「日本美術年鑑(昭和三十四年版)」(美術研究所発行)
- 「世界児童画集(第一集)」(世界児童画の会発行)
- 「American Prints To-day 1959」(Print Council of America 発行)
- 「ある絵の伝記」ベン・シャーン著、佐藤明訳(美術出版社 発行)

以上発行者寄贈

会期は未定であるが、高島屋と相談してなるべく連盟の希望の時期を予定してもらうよう依頼すること、また作家に依頼する方法等につき協議した。

IAPPA総会代表 準備打合せ会

九月の第三回IAPPA総会および東西美術家会議出席準備のため、代表の準備会を六月二十一日午後五時半から東京駅地下

レストランとうきょうで開催。阿部、加山、山本(稚)各委員、事務局和田、木下、倉田出席。準備した会議の議事日程、各議案等の資料を逐次研究し、分科委員会における分担等を打合せた。

そのあと東西美術家会議の資料として作成したカラーイラストを試写した。

第118回委員会

兼会館建設実行委員会

六月二十八日午後五時半から東京駅地下レストランとうきょうで開催した。

〔出席〕阿部、新井、伊藤(廉)大河内、川口、北岡、久保、三田、田村、中島、本郷、松村、宮本、山内、山本(稚)各

委員、事務局和田、木下、西原
三田委員を議長としてつぎの議事を行なった。

◇報告事項
1 益田氏の渡欧、村田氏近日退院の予定など委員の消息。
2 災害救援美術家協議会安井氏からの報告(前号参照)。
3 著作権協議会に抗議書を発送したこと(前号参照)。
4 会員のための催し映画会につき、前回委員会の協議にもとずき、催しもの委員で研究の結果計画を決定、七月五日開催の予定としたこと。

5 賛助会員、顧問等にお礼として、毎年の例にしたがいつつ三十四点の作品を贈呈したと。
6 前回委員会の決定により、

美術家会館建設

寄附作品受領報告(その九)

前号ご報告以後、左のとおり作品のご寄贈を頂きました。現在までの寄附作品累計は、日本画三一七、洋画八二四、版画一一五、彫刻一三五、総計一三九一点となりました。

他にIAPAのフランス、チリ、イタリア各国内委員会より計三十九点の作品の寄贈をうけております。ここに報告して深甚の謝意を表します。

- 洋画
青山 義雄 南仏風景 油十号
内田 武夫 埴輪と牛 //十号
中野 和高 高原早春 //八号
林 武 静 物 //廿号
版画
浜田 知明 群 盲 銅 版
彫刻
水野欣三郎 ゴールイ ブロン



チリ寄贈版画
グウトチスキー氏作

IAPAチリ国内委員会とオタ氏に日本委員会宮本委員長から震災の見舞状を送ったこと。
7 ヴェネチア・ビエンナーレが六月十八日開会されたこと。

◇協議事項
1 入会申込者承認の件
入会申込者三名を承認した。

2 会館設計の件
事務局長から前回委員会以後の経過を報告し、会社側の希望条件を加えてつくられた設計案および村井氏のデザインの下図を披露した。設計の平面図については会社側と協議してなお改めることが予想されるが、建物の基本的な形と村井氏のデザインについては全員賛成し、これを実現する方針に一致した。

3 建設展準備の件
会期の問題、作家依頼の問題などにつき協議し、展覧会準備委員会を設けることとし協議の

映画鑑賞会

七月五日午後一時半から丸の内第一生命ホールで連盟主催の映画鑑賞会を開き、在京および近県の会員その他関係者および家族等を招待した。

映画はユーゴスラヴィアの短篇美術映画三種ベオグラードの国立美術館、ファンタスティック・パレード外一篇と、ソ連の歴史的名作といわれるエイゼンシュテイン作戦艦ポチョムキンとで、山本(稚)委員開会のあいさつ、阿部委員の紹介と解説について映写し、来会多数、盛況のうちに午後四時終了した。

病氣見舞

内規により左の三氏に見舞金を贈呈しました。
布施信太郎氏 佐藤 白鶴氏
中野安次郎氏

結果左の諸氏を委嘱することに決定した。

新井、中島、西沢、望月、大久保、大河内、高野、田村、北岡、平塚、本郷、向井、山本(豊)、山内各委員

4 資金計画の件
会館のための募金計画については、設計問題の進捗がおくれた事情からしばらく休止状態にあったが、あらためてその方策につき協議し、運動に着手する方針、順序等打合せた。

5 リトグラフを売る件
会館資金計画の一つとして作成したリトグラフの頒布はかなり進捗したが、なお残部があるので、それを売る方法について協議し、委員からさらに心当りの愛好者を紹介してもらおうこととした。

6 購買部取扱品の件
日本画家のために麻布生地を取扱う件につき協議した。

7 美術家の著作権手引書の件
美術家のための簡便な著作権解説書を編さんすることをほかり、これを決定した。

8 その他
ユネスコ代表部戸田氏から依頼の件、およびある会社から胸像制作につき問合せのあった件などにつき相談した。

複製提供について

おねがい

パリのユネスコ常駐代表戸田盛国氏からつぎの趣旨の依頼がありました。

セイロンの同代表デ・シルヴァア史の主唱で、各国の美術作品のうち「愛、結婚、夫婦、母子」等を主題とした絵画および彫刻の複製集を出版して行きわたらせ、人類は一つだとの理想の実現に資したいとの計画が、ユネスコの協賛アメリカ某財団の資金援助で進められております。昨年執行委員会の際に、それらの複製の見本が展示され、相応な印象を与えましたが、その際日本は浮世絵の母子図が出ていました。

今秋ぐらい出版の運びにし

たいと奔走されていますが、ぜひその中に日本の絵画と彫刻数点づつ入れたいので、とくに結婚式、夫婦または夫婦と子供といった主題の複製がほしいということですが。

絵画は色刷複製(それから複製するのでなるべく大型で出来のよいもの)、彫刻は白黒写真に願いたく、採否はまかせてほしいとのことです。

つきましては皆様のうちでもしそのような複製あるいは写真を提供して下さる方がありましたら、連盟事務局にお送り願いたく、とりまめて当方から戸田氏の方へ送りたいと存じます。せつかくの企画ですから何か日本の資料を提供したいと思っておりますので、なにとぞご協力をお願いいたします。

会館設計に関する

諸 会 合

ニユース93号に報告以後の進捗はつぎのとおりである。

設計相談会

山口氏に依頼した基本的構想の第一案ができたので五月九日夕銀座オリソニックで開催。樋口顧問、会社側広瀬、川森、池田諸氏、連盟宮本、田中、大沢和田出席。山口氏の研究所の三輪、近藤両氏から模型と図面により説明をきいた。この構想については一同賛意を表したが、なお貸室として経営する場合の

相 談 会

連盟の回答およびその後の打合せにもつき六月十六日夕銀座オリソニックで開催。山口、三輪、会社側広瀬、川森、池田、連盟田中、和田諸氏出席。主と

諸問題につき会社側で研究し、意見を出すこととした。

ディレクターズ会議

会社側で検討した結果の意見書が出たので、これにつき協議のため六月三日夕四谷さぬきやで開催。村井、田中、大沢各委員、事務局和田、木下、西原出席。意見書を検討しこれに対する連盟の意見をまとめて回答することとした。

して会社側の希望条件を伝え、設計の上でくふうしてもらおうととした。

相談会

今後の進め方につき六月二十日午後、大沢、村井各委員、和田の諸氏、山口氏の研究所に集まり、種々打合せした。

相談会

改めた設計案と村井氏の下図が準備されたので、六月二十八日午後、山口氏の研究所に宮本大沢、本郷、村井各委員、和田の諸氏集まり、山口、三輪氏らと協議、村井氏の構想に一同賛成、その実現をはかることにした。

第四回シエル美術賞

作品募集

シエル石油会社設定、新人奨励の意味をもつシエル美術賞の競技は、本年新たに版画のため「鎌倉近代美術館版画賞」を附加し、左の要領で行われる。

規約(要旨)

(審査) 日本美術評論家連盟と神奈川県立近代美術館運営委員が選定、審査する。

(種目) 油彩、水彩、日本画、版画。五十号以下(額縁なし)二年以内の制作とし、既発表のものでもよく、参加資格を制限しない。

(賞金) 等一点十万円、二等一点五万円、三等四点各一万五千元、及び鎌倉近代美術館版画賞。シエル石油会社は、受賞作品がカレンダーその他に使用適

当と認められた場合、複製使用する権利をもつ。

(搬入) 八月十一日から十五日までに加藤運送店(新宿区四五八、電話一六二〇)に一点につき二百円(東京鎌倉間往復運賃)をそえて搬入。地方出品は八月十日までに同店シエル美術賞展係宛に到着するように送ること。鎌倉近代美術館への直接搬入は、八月十一日から十四日まで。作品の裏面には、氏名、住所、作品題名を明記し、同時に生年月日、最終学校、簡単な画歴を提出する。(その他) 審査結果は、八月二十九日に発表、受賞作品と選外佳作は、九月二日から十一日まで鎌倉近代美術館で展示し、その後主要都市で巡回展示する。(細目は鎌倉又は国立近代美術館気附評論家連盟に照会のこと)

特約旅館

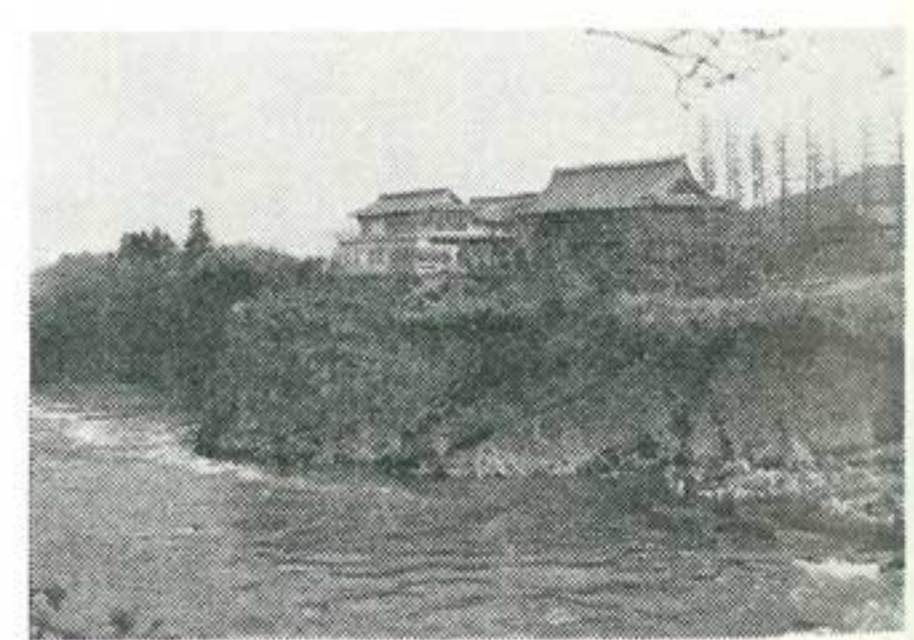
左の一館を新たに特約しました。会員証ご持参の上ご家族とともにご利用下さい。

◇可児川温泉・日本ライン観光ホテル(旧北陽館) (会員服部保氏紹介) 管理者熊谷小次郎氏。岐阜県可児郡可児町。電話美濃加茂二一六八一九。

名古屋から名鉄線犬山乗替岐阜から名鉄線、鷺沼、犬山乗替、ライン遊園駅下車。自家用車出迎え。

一泊二食一千二百円—二千円を一千円—一千八百円に割引する。日本ラインを見下す景勝の地にある。(写真参照)

日本ライン観光ホテル



開き、主として三十四年度(昭和三十四年四月—三十五年三月)事業および収支決算報告を行ない、異議なく承認された。連盟からは理事会には和田理事、組合会には西沢、前田各議員および和田理事が出席した。

報告要旨

東京都二十三区が昨年十二月から国民健康保険を実施したため被保険者の異動が激しかったが、懸念された組合被保険者の減少はみられず逆に一七〇〇余名の増加となった。しかし受診率も一人当たり平均医療費も前年度よりいささか高くなくなった。一方国庫補助金も全国組合の運動により当初見込み額より増額された。

組合の現況(三月末)

- 1 組合の現況(三月末)
- (括弧内は昨年度末)
- 加盟団体数 三五(三四)
- 被保険者総数 八、一七六名
- (六、四〇九名)
- 内組合員 二、五二〇名
- (二、〇七三名)

健康保険

理事会・組合会

三十四年度事業および収支決算報告

文芸美術国民健康保険組合では六月二十九日午後三時日比谷陶々亭で理事会を、七月九日午後三時から産経会館で組合会を

10月発売、1500円、B4判箱入

横井礼以自撰画集

三彩社 限定版

申込先

名古屋市千種区山門町2 岩月虎雄

著作権協議会総会

社団法人日本著作権協議会では去る五月二十六日午後三時半から日比谷市政会館で本年度定時総会を開いた。前号に記したとおり連盟を召集から除外し、

その他にも批判的発言を予想される人々の入場を拒否して開会したためか、議事はとどこおりなく進捗し、きわめてなごやかに終了したという。

昭和三十四年度事業報告、同収支決算報告、昭和三十五年度事業計画および予算、役員改選の件等が行なわれたが、これまでの総会と変わったことは、事業報告は議長でなく黒川副幹事長が行ない、決算報告には鈴木常任監事の監査報告が添えられ、また同監事の監査の結果正確と認められた旨の報告が行なわれた。また総会の後、その議事録を作成して議長および出席者二名が署名捺印し、その写を会員に報

告することが今回行なわれた。昨年連盟から発した質問事項の多くが実現されたわけで、同会運営の改善を示している。

なお、総会後同会から連盟に自然退会を通告してきた書面には「第五号議案として他の団体の件と一括はかり満場一致承認」されたとある(前号参照)が、議事録によれば第五号議案ではなく、この問題は総会の全議事終了後「懇談による決定事項」のうち、「加盟団体の入退に関する報告」で行なわれたことになっている。また文芸家協会ニース(107号)によれば、右総会に出席した外村繁氏の報告で、総会ではそういう発言はまった

展覧会業務一般美術品梱包輸送

株式会社 川端商会

本店 東京都葛飾区堀切町789番地
電話 葛飾 3200番

営業所 東京都台東区上野公園美術館内
電話 駒込 4027番

連盟御指定

熊の湯

涼風の志賀高原に
お遊びください

—長野電鉄湯田中駅下車バス—

家族 五、六五六名
 (四、三三六名)
 内連盟関係被保険者総数 一、一四三名
 (七九〇名)
 内組合員 三九六名
 (三〇〇名)
 家族 七四七名
 (四九〇名)

2 保険給付状況

件数 二五、六五八件
 (一七、二三八件)
 費用額 三五、五五八、五二八円
 (二一、九八六、二六四円)

3 収支決算報告

受診率 三二六% (二九四%)
 歳入額 二二、八八〇、三二四円
 (二六、二三八、八三八円)

歳出額 二二、六五八、五〇一円
 (一五、六八八、六五八円)
 差引残額二二、八一三円
 (五九〇、一八〇円)

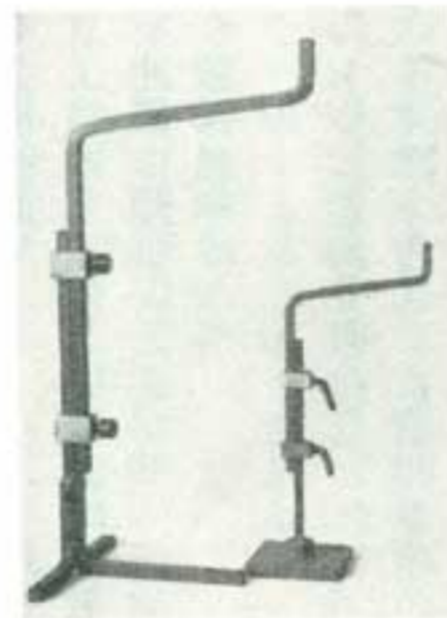
一五、六八五、七二〇円
 (一一、六四二、六九〇円)
 収納率 一五、六七〇、〇一〇円
 (一一、六三六、二三〇円)
 収納率 九九、九〇%
 (九九、九四%)

購買部おしらせ

◆彫刻用の心棒と廻転台

購買部ではキャンバス、額縁、木炭紙、スケッチブック等のほかに、新たに油絵用木枠各寸法のもの、とくに彫刻部会員のために心棒と廻転台を廉価でお世話することにしました。

心棒 A型(半等身用支柱・一、八七〇円)、B型(小型支柱・五二〇円)、C型(一九〇円) D型(一三〇円)の四種。以上運賃別。目下、C型一個、D型四個だけ入荷済み。(写真参照) 廻転台 大型(直径一・八尺)



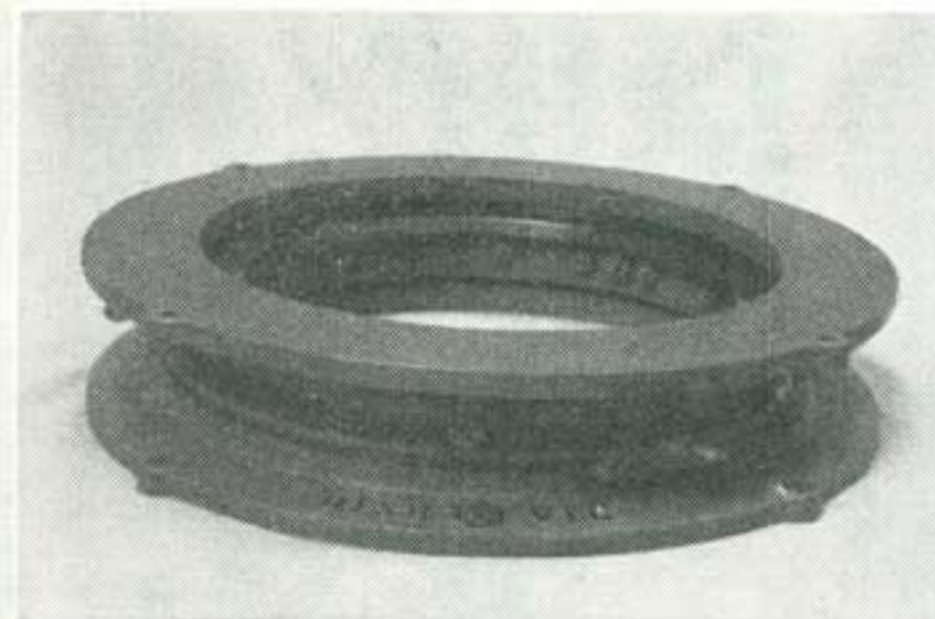
彫刻心棒C、D型

只今、小型(二、〇〇〇円)一個入荷済み。(写真参照)

心棒と廻転台は七月下旬から本格に制作がはじまりますので、予約お申込みを願います。

集録

◆小宮昇次郎氏(連盟医療顧問 高輪診療所長) 同診療所では従来の内科のほかに、新たに産婦人科と小児科が新設され、また病室が設けられました。
 ◆片山 公一氏(洋) 六月十六日、約一カ年半の予定でフラン



彫刻廻転台小型

スへ出発。
 ◆堂本 尚郎氏(洋) 六月二十三日、再渡仏。
 ◆藤井令太郎氏(洋) 六月十六日、約一カ年の予定で渡欧。
 住所変更
 糸田 芳雄
 梅原 英子
 大磐 玲子
 大谷 俊治
 大場 厚
 岡村 芳男
 加藤 秀夫
 栗田 貞子
 小島 清
 関口 如水

会費納入について
お願い
 本年度の会費は、多数の方々からすでにご納入になっております。しかしなお未納の方もかなりの数にのぼっております。本年度も下半期に入りましたので、未納の方は、なるべく早くおさめ下さるようお願い申し上げます。なおまた、昨年度分または、それ以前の会費未納の方については、くりかえし書面をもっておねがいしてありますように、なるべく早くご精算ねがいます。

地名変更
 富安 昌也
 益田 義信
 吉田 愛子
 米田三男之介
 東理 次良
 菊地 敏雄
 近藤 吾朗
 今野 忠一
 斎藤 正夫
 笹島 喜平
 白滝幾之助
 代田 恒夫

後記
 ▼昨年来日したチリの画家オタさんから、IAPA日本委員会の震災見舞状に対する大へん喜んで礼状がとどきました。首都サンチャゴは無事だったそうですが、南部各地の惨状ははなはだしく、なお氾濫がつづき冬の寒気と雨になやんでいる由。美術家はみな作品を寄贈、公売にしているとのりました。(和)

鈴木 隆
 谷沢 秀晃
 岡田 行一
 鬼塚 金華
 小島真佐吉
 近藤 嘉男
 佐々木宗一郎
 阪口 茂雄
 須山 計一
 田中寿太郎
 高山 良策
 千野 茂
 仲田 好江
 樋口 一郎
 福本 春子
 松浦 満
 水野 以文
 渡辺 晴巴

◎昭和三十五年七月十日発行
 編集兼 和田 新
 発行人 和 田 新
 発行所 日本美術家連盟
 東京都新宿区四谷一ノ二八
 電話 五七七八
 振替東京四一、四一